

環境と産業

担当教員	辻義人
対象	全コース・学部共通選択
科目群	教養基礎科目群（社会参加）

授業概要

これまで、産業分野の文脈における「環境」は、公害や自然破壊など、負の側面から語られることが多かった。しかし、現在では、持続可能性の観点にもとづき、人類と環境との共存に向けた議論が行われている。本科目では、企業の社会的責任（CSR: Corporate Social Responsibility）、また、持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）について、私たちの日常生活の観点から、理解を深めるものである。

キーワード

SDGs, サステナビリティ, CSR/CSV, 環境経営, グリーンIT, エネルギー問題

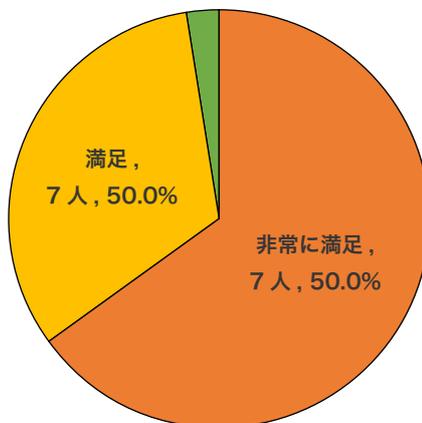
到達目標

- 産業分野における「環境」の位置づけ、また、「環境」に関わる活動を理解する。
- SDGs、CSR など、環境経営に求められる視点を、私たちの日常生活と関連づけて理解する。
- 最新のニュースなどの身近な話題に注目し、産業活動と環境問題との関連を理解する。

授業フィードバックアンケート結果

授業満足度

非常に満足	26人	65.0%
満足	13人	32.5%
コメントあり	1人	2.5%
不満	0人	0.0%



コメントあり, 1人, 2.5%
不満, 0人, 0.0%

授業フィードバックアンケート結果

来年度以降も続けてほしいこと (抜粋)

- 授業後半に毎回行われるミニレポートをとおして、授業内容の振り返りを行うことができた。また、実際に企業が公開している CSR 報告書の調査をとおして、自分の知っている企業の理念など、新たな側面を知る機会になった。
- respon (ウェブ上での回答・投票機能をそなえ、コメントや選択肢についてリアルタイムに回答し集計できるシステム) を利用することで、より授業に参加している実感がわいた。
- 毎回の授業の初めに行われる、最近の時事問題(環境)についての解説は、今後も続けてほしい。これによって、現在、日本や世界で何が起きているのか、また、これまではどうだったのかを分かりやすく把握することができた。
- 学外講師による講義、また、未来大生による発表は、来年度以降も続けてほしい。どちらも、エネルギー問題という身近なテーマを扱っており、興味深い内容を聞くことができた。
- レポート課題について、政府や各省庁が発表した最新データにもとづき、そこから何をどのように考えるかが問われていた。最新の情報に基づき、今現在の知見を知ることができた。

履修者から後輩へのアドバイス (抜粋)

- ほとんど毎週、最新の「環境と産業」に関するニュースについて簡単な解説があり、自分たちにとって、何がどのように関わっているのか、世界経済や社会の出来事を身近に感じられました。この講義を履修することで、自分自身でも、ニュースをよく見て理解しようという気になりました。
- 講義内容は、ほぼシラバスに沿ったものです。「環境と産業」について、大学生として必要不可欠な知識を幅広く扱っています。中間試験や期末試験はレポート形式で、さほど難しいものではありません。ただ、しっかり資料を調べたうえで、自分の考えを述べる必要があり、試験問題も勉強になりました。
- 授業中に、受講者の反応をリアルタイムで集計して共有するシステム (respon) が導入されました。自分自身の考えと、一緒に受講している人との考えを比べることができて面白いです。
- 通常は先生による講義ですが、2 回ほど、学外の講師を招いたワークショップが開講されました。エネルギー問題について、ゲーム形式で意思決定を行うもので、とても興味深かったです。

担当教員インタビュー

Q この授業を設計・実施する際のポイントを教えてください。

A 本科目は、昨年度 (2023 後期) まで、オンライン形式で開講していました。しかし、今回 (2024 後期) からは、対面形式で実施することにしました。それにあわせて、受講者どうしのコメントや考え方について、リアルタイムで集計し共有する仕組みを導入しました。これによって、授業に参加している臨場感が高まったこと、また、授業内容や学習活動への動機づけが高まったとのコメントが見られました。

Q この授業を担当していておもしろいところ、楽しいところを教えてください。

A 本科目内容につきまして、担当教員は、環境問題や産業活動を専門にしているわけではありません。そこで、担当教員として、授業内容に関する理解を深めつつ、どのように授業として成立させるかについて、例年のことながら苦戦しています。ただ、自分自身が、環境と産業に関するニュースを調べ、それを紹介することで、受講者から興味が高まったとのコメントがありました。受講者に、授業で扱った内容を身近に感じてもらうために、考えて工夫することは楽しいです。

Q この授業の履修者、またはこれから履修しようと考えている学生へのメッセージをお願いします。

A 本科目では、毎年、授業内容や学習活動に変化を加えてきました。今後とも、何らかの新たな工夫や取り組みを続けたいと思います。受講者とともに、担当教員としても学びたいと考えています。